

科目名	関係法規		
担当教員	中村 園美		
配当年度	3年 前期後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療、看護を実践する上で、法的側面を理解する事は、他者の権利を守ることと同時に自己を守ることもつながります。前半はテキストを中心に看護関係法令を理解し、後半では実際の裁判事例を使って看護師の法的責任とそれを守る意義を明確にすることを狙いととしています。		
到達目標	保健師助産師看護師法を学び、看護職の定義、業務、義務を説明できる。 保健医療福祉に関係する法規について理解する。 各種関連法規の学習を通して、医療保健福祉との関連を述べるができる。 演習を通して、他者の意見を聴き、自分の考えを表現する事ができる。 演習を通して、看護職の法的責任を守ることの意義を自分の言葉で述べるができる。		
授業概要	講義・演習		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法律の基礎知識 法の概念・法の種類・法の分類</li> <li>2、3 看護法 保健師助産師看護師法 定義・法の構造・免許要件、業務とその範囲、沿革 看護師等の人材確保の促進に関する法</li> <li>4 医事法 医療法 病院の管理、医療計画、医療関係資格法</li> <li>5 医事法 保健医療福祉資格法、医療を支える法</li> <li>6 保健衛生法 共通保健法、分野別保健法、感染症に関する法律</li> <li>7 保健衛生法 分野別保健法、感染症に関する法律</li> <li>8 保健衛生法 分野別保健法、感染症に関する法律</li> <li>9 薬務法 社会保険法 福祉法</li> <li>10 労働法 個人情報保護法</li> <li>11 看護と法律 実習からの学び グループワーク</li> <li>12 民事裁判の事例検討</li> <li>13、14 事例について ディベート</li> <li>15 法律に基づいた福祉の現状</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障(4) 看護関係法令 (医学書院) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)		
参考書	授業の際に提示する		
評価基準方法	テスト90点+演習後のレポートと演習参加の評価で総合評価します。 ただし、テストで6割(54点)をとれていない場合には再試験とします。		
備考・学生へのメッセージ	この科目では、今まで学習してきた法律を再度学習することになります。 適宜、演習を行います。ぜひ、前向きに学習に取り組んでください。		

科目名	地域医療論		
担当教員	山本 長史 (2時間) 桂 美奈子・外崎 みさき・黒田 彩弥香 (13時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	地域社会の現状と重要性を学び、地域で看護できる基礎的能力を養う。		
到達目標	1.地域看護活動の実際が分かる。 2.病院における地域看護活動が理解できる。 3.地域医療のしくみやつながり, 医療と介護のつながりを理解できる。 4.継続看護のための連携の実際を学ぶ。 5.各専門職の協働について学ぶ。		
授業概要			
授業計画・内容	<<山本 講師>> 地域保健医療福祉の現状と課題(総論) 1 公衆衛生, 地域保健活動の考え方 2 保健所の役割・機能 3 南空知の保健医療福祉の現状と課題  <<桂講師・外崎講師・黒田講師>> 1 病院での地域看護活動とは 2 「退院」をとりまく現代社会のニーズ 3 退院支援とは 4 退院支援の実際 5 事例, グループワーク		
使用テキスト	地域医療テキスト 監修 自治医科大学		
参考書			
評価基準方法	出席状況と筆記試験にて総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	小児看護Ⅲ		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	この科目では、健康障害のある子どもとその家族に対し、看護実践のために必要な基礎的知識・技術を学習します。授業内容と臨地実習を関連付けて学びます。		
到達目標	1. 小児に特有な疾患を持つ子どもと家族の看護を理解できる。 2. 小児の事例を用いて看護過程が展開できる。 3. 小児看護を実践するために必要な看護技術が実施できる。		
授業概要	2年次に学習した小児に特有な疾患の理解をもとに授業を進めていきます。 看護過程では、実習記録用紙を使用した事例展開を行います。		
授業計画・内容	<p>第1回 小児の看護過程の特徴</p> <p>第2～4回 急性期にある小児と家族の看護 感染症、肺炎、気管支炎、胃腸炎、腸閉塞、川崎病 溶連菌感染後急性糸球体腎炎</p> <p>第5・6回 慢性期にある小児と家族の看護 1型糖尿病・ネフローゼ症候群</p> <p>第7回 気管支喘息の子どもの看護 事例を使用した看護過程の展開 レポート提出</p> <p>第8回 先天異常・染色体異常を持つ子どもの看護 21トリソミー、18トリソミー 低出生体重児の看護</p> <p>第9・10回 周手術期にある小児と家族の看護 手術を受ける小児の特徴、術前・術中・術後の看護 口唇口蓋裂・鎖肛・ヒルシュスプルング病 肥厚性幽門狭窄症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症</p> <p>第11～13回 災害時の小児の看護 終末期にある小児と家族の看護 子どもの死の捉え方、小児がんの特徴 白血病 終末期にある患児のDVD視聴 視聴後レポート提出</p> <p>第14回 心身障害のある子どもと家族への看護 脳性まひ、筋ジストロフィー、注意欠陥・多動症、自閉スペクトラム症</p> <p>第15回 事故・外傷と看護 子どもの虐待と看護 小児看護技術 小児の救急看護</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学② (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護総論 小児看護学① (医学書院) 写真でわかる 小児看護技術アドバンス (インターメディカ)		
参考書	講義の中で随時紹介します。		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(15%程度)、筆記試験(85%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	小児看護Ⅰ・Ⅱの復習をして臨んでください。		

科目名	母性看護Ⅲ		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	母性看護を実践するために必要な知識・技術を学ぶ。また、生殖をめぐる生命倫理問題について考え、自己の生命観を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生殖をめぐる生命倫理的諸問題について、今までの知識や実習体験をふまえ自己の考えを述べるができる。</li> <li>2. 事例を通してアセスメント・問題の抽出・目標立案・具体策立案ができる。</li> <li>3. 母性看護に特徴的な看護技術の注意点について理解し安全な技術を実施できる。</li> </ol>		
授業概要	母性看護概論・母性看護Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を活用しながら事例の看護過程を展開します。看護過程の展開は、学生同士の検討会を設けますので活発な意見交換をしてください。生殖に関する倫理問題では、グループ討議や文献検索等を通して、他者の意見や価値を知り、自己の生命観を養うことを目的とします。自己学習をして進めることが必要不可欠になります。		
授業計画・内容	<p><b>1. 2. 3. 4. 母性看護における生命倫理問題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性看護における生命倫理的諸問題とは</li> <li>2) 生命倫理諸問題について(出生前診断・着床前診断・不妊治療など)</li> <li>3) 生命倫理的諸問題についてグループで文献検索し、学びを発表する。</li> </ol> <p>* グループでの学びをパワーポイントにまとめ、配布資料を作成します。</p> <p><b>5. 母性看護における看護過程</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 母性看護の視点・対象把握 問題点の捉え方・看護目標の設定・具体策立案・評価</li> </ol> <p><b>6. 7. 8. 9. 紙上事例による看護過程の展開</b> 褥婦・新生児の事例について看護過程を展開する。</p> <p><b>10. 母乳育児について</b> 母乳育児の支援について</p> <p><b>11. 12. 13. 母性看護技術演習</b> 沐浴・新生児のバイタルサイン測定・オムツ交換・抱っこ・排気・更衣 乳房の観察方法</p> <p><b>14. 15 沐浴技術試験</b></p>		
使用テキスト	専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学(1) (医学書院) 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学(2) (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた母性看護技術 (医学書院) 領域別看護過程展開ガイド (照林社) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 (医歯薬出版株式会社)		
評価基準方法	講義終了後の筆記試験(85点)及び沐浴技術試験合格(5点)・レポート内容(10点)で評価する。		
備考・学生へのメッセージ	本単元の内容は、母性看護実習で重要な部分です。自ら学ぶ姿勢を持ち、積極的に講義に参加することを望みます。		

科目名	精神看護Ⅲ		
担当教員	佐藤 かをり(20時間) 宮本 実& 曳田 憲昭(10時間)		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	精神に障がいをもつ対象とその家族の生活を援助するための基礎的知識を学ぶ。精神障害を持つ対象に対するリハビリテーションを理解し、個別的な看護に生かせる能力を養う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な生活の場における精神看護について理解できる。</li> <li>2. 身体合併症を有する対象の看護について理解できる。</li> <li>3. 精神障がいを持つ対象の社会生活能力、対人関係技能などの特徴を学び、個々の対象者に対する関わり方やリハビリテーションの進め方を理解する。</li> <li>4. 精神障がいを持つ対象をとりまく環境(法律や社会復帰施設など)を理解し、対象者の長期的な予後について考えることができる。</li> </ol>		
授業概要	事例を用いた看護過程の展開から、精神に障がいをもつ対象とその家族の健康的側面を考慮した日常生活の自立にむけた援助について考えましょう。		
	≪宮本・曳田講師≫ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害をもつ対象者のリハビリテーションとは 精神障害のリハビリテーションの歴史 関連する法律や制度について・事例紹介</li> <li>2. 精神障害者のリハビリテーションの構造 精神障害者作業療法プログラムと方法 治療プログラム体験(IMR)</li> <li>3. 精神障害の理解 疾病に応じた作業療法の進め方 治療プログラム体験(メタ認知トレーニング)</li> <li>4. 精神科ディケア 治療プログラム体験(SST)</li> <li>5. 精神障害者を持つ対象者の地域生活を支えるサービス 日常生活の中に現れてくる基本的な問題、 具体的・個別的な精神行動特性 当事者や看護師が知っておくべきこと 事例紹介</li> </ol>	≪佐藤講師≫ <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護の看護過程</li> <li>2. セルフケアと精神看護</li> <li>3. [演習] プロセスレコード</li> <li>4. 事例: 統合失調症をもつ患者の看護(急性期)</li> <li>5. 事例展開: 統合失調症をもつ患者の看護(慢性期～回復期)</li> <li>6. 事例: 気分障害をもつ患者の看護</li> <li>7. 精神科における身体のケア</li> <li>8. 外来と精神救急</li> </ol>	
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学[1] (医学書院) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学[2] (医学書院) 学生のための精神看護学 (医学書院)		
参考書	統合失調症を理解する 広沢正孝 (医学書院) 精神科リハビリテーション 野中猛 (中央法規)		
評価基準方法	筆記試験、事例提出、出席状況により総合的に評価する。 点数配分: 宮本& 曳田講師(30点) 佐藤講師(70点) ただし、宮本& 曳田講師は講義ごとに行う小テストの中から出題する筆記試験にて評価します。		
備考・学生へのメッセージ	教科書の該当ページ、配布プリントを確認し、積極的に授業に臨んでください。 精神科リハビリテーション場面において、対象者の発言や行動、行っている作業活動の意味を考えることは、よりその方の状態を理解することに役立ちます。これは他の科において対象者と関わる上でも役立つと思いますので、是非精神看護の勉強を通して対象者を診る目を養ってください。		

科目名	在宅看護Ⅲ		
担当教員	金田 百香		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	訪問看護における看護過程の基本・特徴を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護論実習の実習記録を作成することができる。</li> <li>2. 情報収集・アセスメント・全体像・看護課題の明確化・目標設定・計画立案することができる。</li> <li>3. 在宅看護の視点で家族をアセスメントすることができる。</li> <li>4. 社会資源の活用についてアセスメントすることができる。</li> <li>5. 限られた訪問時間の中での行動計画であることがわかる。</li> <li>6. 医療者・介護者が不在な時間を考えることができる。</li> </ol>		
授業概要	紙上事例を用いて看護過程を展開していきます。個人ワークで進めます。在宅看護概論・在宅看護ⅠⅡで学んだ知識を活用して、看護過程の展開を行います。		
授業計画・内容	<p>1回目 在宅における看護過程の特徴(講義) 看護過程を展開する事例の紹介 記録用紙の説明</p> <p>2～4回目 在宅における看護過程の展開(個人ワーク)</p> <p>5回目 問題点・優先順位・看護の方向性についてグループワーク</p> <p>6～8回目 在宅における看護過程の展開(個人ワーク) 在宅看護論実習に向けて、アンケート記入</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) ナーシング・グラフィカ 在宅療養を支える技術 在宅看護論② (メディカ出版)		
参考書	関連図で理解する 在宅看護過程 (メヂカルフレンド社) 強みと弱みから見た在宅看護過程+総合的機能関連図 (医学書院) ICFモデルを用いた在宅看護過程の展開 (ふくろう出版)		
評価基準方法	看護過程の評価は、在宅看護論実習の評価表を使用します。 講義の中で、提示します。(看護過程56点 筆記試験44点) 単位の認定には、看護過程の提出が必須です。		
備考・学生へのメッセージ	在宅看護論実習の準備・前学習に繋がります。実習要綱に沿って記録用紙を準備し、学習していきましょう。 2年生の演習でのレポートを振り返り、実習に向けて学びたいことを具体的にしていましょ。		

科目名	看護の統合 I 看護管理		
担当教員	中野 和美		
配当年度	3年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護管理の意義や基礎的概念を学ぶ。		
到達目標	病院等における看護管理の意義・目的が理解できる。		
授業概要	<p>看護ケアのマネジメントは、対象者が受けるすべてのケアをマネジメントすることであり、看護職が責任をもってケアを対象者に提供するために必要となるものである。</p> <p>この授業では、看護ケアにおけるマネジメントの基礎的な意義を岩見沢市立総合病院での実務例を通して理解することを目指す。</p>		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護管理—看護におけるマネジメント</li> <li>2 組織化とマネジメント</li> <li>3 看護職と法制度</li> <li>4 看護倫理</li> <li>5 看護の動向</li> <li>6 ミッションマネジメント</li> <li>7 看護ケアのマネジメントと看護職の機能</li> <li>8 患者の権利の尊重</li> <li>9 安全管理</li> <li>10 チーム医療</li> <li>11 看護業務の実践</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 統合分野 看護の統合と実践(1) 看護管理 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況とテストまたはレポートにより総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	看護の統合Ⅱ 統合技術		
担当教員	熊木 美香(4時間) 金田 百香(4時間) 原野 理(3時間) 藤本 沙織(4時間)		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	専門分野Ⅰで学んだ看護技術を統合し、看護を展開できる基礎的知識・技術・態度を身に付ける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 複数患者のアセスメントをふまえ優先順位を考慮した行動計画を立案し、グループで実践できる。</li> <li>2. 看護実践場面中に起こった緊急・突発事態に対し、適切な判断(連絡・報告・相談・調整・確認)および必要な援助ができる。</li> <li>3. 「看護者の倫理綱領」を理解し、責任ある行動をとることができる。</li> <li>4. 看護の統合と実践実習に向けた自己の課題を理解して目標を見いだせる。</li> </ol>		
授業概要	<p>オリエンテーション後、チーム単位で演習を進めていきます。演習での発表では、複数の模擬患者に対し、優先順位を判断しながら必要な看護を提供すること実施します。</p> <p>看護過程に関する課題(夏季休暇前に課題提示)やその他のレポート課題及び看護の統合と実践実習に向けて技術チェックを行います。</p>		
授業計画・内容	第1回	コースオリエンテーション チームカンファレンス	
	第2・3回	チームカンファレンス 複数受け持ち患者(模擬)への行動計画の検討 技術チェック	
	第4～7回	複数受け持ち患者(模擬)への看護介入	
	第8回	チームカンファレンス 実施に対する評価	
使用テキスト	今まで使用した教科書・参考書すべての知識を使います。他資料等がある場合は、その都度提示します。		
参考書			
評価基準方法	レポート・課題等の提出物(70%)と技術チェック(10%)、模擬患者への看護介入に関する活動状況(20%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	<p>複数患者への看護提供の演習では、根拠に基づいた行動がとれるよう今まで習った知識を確認しながら学習をすすめて下さい。また、看護技術は原理原則の確認をしながら練習をし、看護の統合と実践実習に活かすことができるよう反復練習をしてください。</p> <p>演習をとおして、自己の課題とその対策を明らかにすると共に、後にある看護の統合と実践実習に臨む準備もしてください。</p>		



科目名	看護の統合 Ⅲ 災害看護・国際看護		
担当教員	中村 一世・齋藤 伸(12時間) 原野 理(4時間)		
配当年度	3年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	災害看護の特徴を理解し、災害時に適切な看護を行える基礎的知識・技術を理解する。 国際看護:世界の保健の現状を理解し、健康格差を解決するために、看護職としてどのような活動を実践する必要があるのかについて考えていきます。		
到達目標	国際社会の中での健康、保健の状況に関して理解を深め、看護者としてどのような活動が必要なのかについて、自己の考えを述べることができる。		
授業概要	国際看護:講義開始前に、課題を提示します。各自の学んだ内容をグループワークを通して共有し、講義の内容の理解を深めていくようにしてください。		
授業計画・内容	<<中村・齋藤講師>> 1 近年の災害 災害とは 2 災害の定義 歴史 災害サイクル DMAT ACCEPT CSCATTT トリアージ演習 3 災害看護の基礎知識 役割 救急と災害の違い 災害サイクルに応じた看護 活動場所別の看護 4 被災者に応じた災害看護の展開 こころのケア  <<原野講師>> 1 現代の国際状況を公衆衛生の視点から考える 2 国際看護の概念 3 国際協力と国際看護活動		
使用テキスト	災害看護 寄り添う、つながる、備える 統合と実践 (学研) 系統別看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学(1) 看護学概論 (医学書院)		
参考書	演習で学ぶ災害看護 (南山堂) DMAT 完全マニュアル (メディカ出版) その他、授業の時に提示する。		
評価基準方法	筆記試験と授業態度などで総合的に評価する。 点数配分 中村講師・齋藤講師 80点 原野講師 20点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	医療安全		
担当教員	小林 紀子(16時間) 中村 園美(14時間)		
配当年度	3年 前期後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療安全に関する知識を習得しリスク感性を養う。		
到達目標	医療安全の基本的知識を学ぶ。 医療事故と防止対策に関する考え方を学ぶ。 看護ケアの場面でも医療事故防止策について考えることができる。 演習を通して事故を回避する方策を学ぶ。		
授業概要	小林講師 教科書に沿った項目について現場の事例を用いて説明します。 医療安全に関する事例についてディスカッション、意見交換をします。 国家試験の過去問を参考にしながら、その内容を重点的に説明します。 中村講師 前半の講義・実習での学びを元にグループで事例検討、研修企画を考えて発表をします		
授業計画・内容	≪小林講師≫ 1 医療事故の考え方 2 事故防止の考え方 3 診療の補助業務に伴う事故防止 1) 注射・内服与薬 2) 医療機器の使用管理 3) ドレーン・チューブの使用管理 4) 検査 5) その他 4 日常生活援助業務に伴う事故防止 1) 転倒・転落 2) 誤嚥・窒息 3) 入浴中の事故 4) その他 5 その他の共通の事故防止 1) コミュニケーションエラー  ≪中村講師≫ 1 医療事故分析・事故防止の考え方 2 医療事故分析 グループワーク 発表 3 医療事故防止 グループワーク 発表		
使用テキスト	系統別看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 (2) 医療安全 (医学書院)		
参考書	授業で提示します。中村		
評価基準方法	筆記試験、演習での評価、インシデントレポート提出を合算し総合的に評価する。 採点配分 小林講師 90点 ただし、小林講師の試験で6割を超えていない場合には再試験となる。 中村講師:3つの演習後、レポート提出。10点		
備考・学生へのメッセージ	患者の安全・安楽を守ることができる看護師となるように、学びを深めましょう。中村		

科目名	看護研究		
担当教員	中村 岩美(22時間) 斎藤登美枝(8時間)		
配当年度	3年 前期後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護研究では1つの手法として統計学が使用されます。本講義は実践的な推定、検定、及び相関について学習します。		
到達目標	統計の基本的な考え方を理解する。 各論実習の中から事例を選択し、各自でケーススタディとして論文をまとめ、発表する。		
授業概要	統計学は前期で学習していきます。 後期になり各論実習が終了後、レポートを作成し、発表します。レポートの詳しい内容や設定は後期にガイダンスします。		
授業計画・内容	<p>《中村講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 統計学の概要、度数分布表とヒストグラムの作成</li> <li>2 代表値の種類と求め方、正規分布曲線と平均、標準偏差の関数</li> <li>3 まとめ1</li> <li>4 基準正規分布曲線と割合の求め方</li> <li>5 平均値の差の検定(2群)</li> <li>6 2群の差の検定、平均値の差の検定(2群以上)</li> <li>7 まとめ2</li> <li>8 2群の差の検定、2群以上の差の検定</li> <li>9 割合の検定および割合の差の検定</li> <li>10 2変数の関連性および相関係数の検定</li> <li>11 まとめ3</li> </ol> <p>《斎藤》</p> <p>ガイダンス 12月16日、17日 リハーサル予定 12月18日、21日発表</p>		
使用テキスト	系統別看護学講座 基礎分野 統計学 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	中村講師の筆記試験で60点以上を合格とする。 ただし、レポートを規定に則り作成すること、パワーポイントを使用し発表する事を条件とし出席状況も踏まえ総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ	各論実習後から次の実習までの期間が少ないため、計画的に取り組んでください。		